

# 令和4年度第3回清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会 議事録

日時: 令和5年2月16日(木)

14:00~15:40

場所: 全建総連厚生会館 大ホール

## 1 開会

[司会 (森 森林活用推進課管理調整監)]

それでは定刻となりましたので、ただいまから会議を開催いたします。

本日は大変ご多忙のところ、清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は本日司会を務めさせていただきます森林活用推進課の森でございます。

本日は、団体等から申請のあった事業についての審査案件がございますので、非公開ということで開催させていただきます。

また、本日の資料につきましては、審議会終了後、事務局で回収させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

それでは開会にあたり、林政部長よりご挨拶申し上げます。

## 2 あいさつ

[高井 林政部長]

(あいさつ) ~略~

[司会]

続きまして、本審議会の小見山会長からご挨拶をお願いいたします。

[小見山 会長]

皆さんこんにちは。

林政部長がおっしゃったように、この事業は県民の地域の力を上げる事業になります。

分厚い資料の事前確認に四苦八苦したのですが、中身は実に面白い資料だと思います。それだけ、県民の方が一生懸命いろんな活動をしようとしている姿がわかるということです。

審査会による結果を、我々で今日チェックするわけですが、それとともに、大事な事業ですので、これからどうしたらいいのか、どこが悪いのか、どこが良いかというような議論も、この審議会で行うべきだと思います。本日も議題が用意してあるようですので、よろしく申し上げます。

今日も円滑に進みますよう、よろしく申し上げます。

[司会]

ありがとうございました。

本来であれば、委員の皆様方のご紹介をさせていただくところですが、時間の都合上事務局

も含め、お手元の出席者名簿に代えさせていただきます。

また、笠井委員、木田委員、高木委員におかれましては、所用のため、ご欠席の連絡を受けておりますことを申し添えます。

本日は、令和5年度清流の国ぎふ地域活動促進事業の採択及び清流の国ぎふ地域活動促進事業の傾向についてのご審議をお願いいたします。

それでは、この後の会議の進行につきまして、小見山会長にお願いしたいと思います。

それでは、会長よろしく申し上げます。

### 3 議 事

#### [小見山 会長]

はじめに、「令和5年度清流の国ぎふ地域活動促進事業の採択について」です。  
事務局から説明をお願いします。

#### ●令和5年度清流の国ぎふ地域活動促進事業の採択について

##### [説明（城戸脇 森林活用推進課長）]

（資料1～4により説明）

～略～

※ [中略] 審査案件事項のため非公開

#### ●清流の国ぎふ地域活動促進事業の傾向について

##### [説明（城戸脇 森林活用推進課長）]

（資料5により説明）

～略～

#### [小見山 会長]

はい。ありがとうございます。委員の皆さんいかがでしょうか。

#### [所 委員]

この資料の見方ですが、資料5には、団体数の推移とか補助金額の推移と書いてありますが、別紙の方を見ると、横幅100%で区切って縦に年度が並んでおり、これだと推移が確認できません。別表1の団体数の推移であれば、例えば、年度は横に並べて、31団体が55団体に倍増しているというグラフを作って、それを圏域別で色分けすると中濃がグッと伸びているということがよくわかると思います。

何をやりたいかということがちょっとわからないので、資料5の趣旨と作ってらっしゃる別表の意味は全く不明だと思います。それは、別表2, 3, 4も同じです。表やグラフというのは、パッと見て理解できないと意味がなくて、比率で横に区切るのはすごくわかりにくいと思います。

**[平井 林政部次長]**

資料を作り直して、また送付させていただきます。

**[小見山 会長]**

分析は今回が初めてなので、次回からは分かりやすくお願いします。

金額が決まっていたら、大体団体数で全てが決まってくるということなのでしょうか。

**[杉山 委員]**

今の説明を受けて本当に感心しました。資料5の(4)で、事業の申請を止めた団体について、聞き取り調査をしてくださっているのは、すごく大事なことだと思います。特にそのような意味では、お金があればできるということではなく、やはりマンパワーが重要だということをつくづく感じました。基本的にはボランティアという位置付けだと思うので、人の力を集結させて、何とか事業が継続していくことを願っております。

**[小見山 会長]**

事業の評価を行っていますが、その評価がどうなっているかはあまり関係ないですか。つまり、応募した団体が発展性を持って事業を実施しているかを確認できないかと思ったのです。初めてなので、いろんなグラフを作らないといけないことは確かですから、また考えてみてください。

例えば、何年も申請を出している団体は、前年度の評価で制限をかけるのですか。前年度に悪い評価をもらった場合は次の年は補助金が当たらない等の欠格条項はありますか。

**[事務局（森林活用推進課）]**

特段、前年度の評価に引きずられることはなく、その年度ごとにどういった評価を得られたかで審査しております。

**[小見山 会長]**

それはそれで良いので、各団体の評価がどのように推移しているかというのは、見どころがあるのではないかと思います。

**[小見山 会長]**

お聞きしたいのは、県として問題点はどこだと考えていますか。

中濃が増えているとか、飛騨も増え出しているとか、いろいろ説明いただきましたが、分析された結果として感じる問題点を集約するとどうなりますか。これは我々が考えることかな。

**[平井 林政部次長]**

やはり、やりやすい活動が少し増えているのではないかと思います。

**[小見山 会長]**

少しありますね。例えば、普及啓発というのがそうなのではないかと思います。一つ気になるのは、森林部門と環境部門で普及啓発の割合が全然違いますね。それはどうなのかなと思います。

汗を流してやるところと頭を使ってやるところ、これらを上手くミックスしないといけなくて、どちらかだけに偏ると少しおかしなことになります。どちらかという、私は汗を流す方が好きですが。

**[小見山 会長]**

ありがとうございました。

これで大分いろんなことがわかってきました。おそらく、このような分析は他の基金事業でもできますよね。例えば、年度末のこの最後の審議会で、全事業を一度にやるとまた訳がわからなくなるので、少しずつ出せると良いですね。年度を締めるという意味も強くなってくると思いますので、ひとつよろしくお願いします。

**[小見山 委員]**

本日の議事はここまでとなりますが、皆さん、他に何かよろしかったですか。ないようでしたら、これで終わります。

**[司会]**

熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。

さて、本審議会委員については、任期を2年とさせていただいておまして、今年度で任期の区切りとなります。現在の委員のうち、竹中委員が今期をもってご退任されるということとなりました。竹中委員におかれましては、当審議会の前身である「清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価委員会」から、6期12年の長きにわたり、委員を務めていただき、清流の国ぎふ森林・環境基金事業の審議等にご尽力を賜りました。誠にありがとうございます。

それでは、ご退任に当たりまして、竹中委員より、お言葉を頂戴したいと思いますので、よろしく申し上げます。

**[竹中 委員]**

(あいさつ) ~略~

**[司会]**

ありがとうございました。

それでは閉会にあたり、環境生活部次長からお礼を申し上げます。

**[藤田 環境生活部次長]**

(あいさつ) ~略~

**[司会]**

それでは事務局から再度確認します。

会議冒頭でお願いしました通り、今回の審査にかかる資料は回収させていただきたいと思えます。資料1から5はその場に置いてお帰りください。

なお、本日の議事録につきましては、後日まとめて皆様にお送りします。それとともに、県のホームページに非公開部分を伏せて掲載させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。